

大成館中学校区	校番 31	福山市立今津小学校
最終更新日	2019年(平成31年)2月12日	

I 福山市

<p>ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。</p> <p>ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。</p>

II 中学校区

<p>前年度学校関係者評価の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶小中一貫教育によるあいさつ、歌声等、中学生を手本に充実を望む。 ▶授業力向上等、教職員のより一層の力量アップに努めてほしい。 ▶ふるさと学習、子どもの地域行事への参加等、更なる地域連携を望む。 	<p>児童生徒の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶基礎学力の定着「表現力」「書く力」に課題がある。 ▶あいさつや無言掃除は、小中一貫した取組の成果が見られる。 ▶体力「持久力」が向上している。 ▶地域との交流により、郷土への愛着心が高まっている。 	<p>育成する力 21世紀型「スキル&倫理観」</p> <p>相手意識をもって、自分の言葉で表現する力 ～コミュニケーション能力と思いやり～</p> <p>めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)</p> <p>中学校区として統一した取組等</p>	<p>変化の激しい社会をたくましく生きる子ども</p> <p>(1) 基礎学力を身につけ、自ら学び続ける子</p> <p>(2) 規範意識を身につけ、思いやりのある言動ができる子</p> <p>(3) 運動・食習慣を身につけ、活力のある生活ができる子</p> <p>(1) 学力向上…授業改善、家庭学習の定着、ふるさと学習の推進</p> <p>(2) 規範意識向上…あいさつ、無言掃除、時間厳守、授業開始時の黙想</p> <p>(3) 体力向上…持久力の向上、各校独自課題の克服、食育の推進</p> <p>(4) 児童生徒交流…小中歌声交流会の実施、各種学校行事の交流</p>
--	---	---	--

III 自校

<p>ミッション</p> <p>1 児童が楽しく登校し、全力で自分の能力を発揮できる安全・安心な学校</p> <p>2 確かな学力を身につけ、自他共に感謝・思いやりを大切にする児童の育成</p>					
<p>学校教育目標</p> <p>心豊かに自立・貢献・感謝する児童・生徒の育成</p> <p>感謝・思いやりの心を持ち、自ら学び、幸動する今津っ子の育成</p>					
<p>現状</p> <p><児童生徒></p> <ul style="list-style-type: none"> ○基礎的基本的な学力は定着してきた。また、規範意識や学習規律も定着し、落ち着いた生活態度がみられる。 ○学習や生活への意欲を高めることで、不登校傾向にある児童が減りつつある。 ●書く力、表現する力に課題がある。また、家庭学習の定着に課題がある。 <p><授業></p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元指導案を作成し、板書計画をもって授業に臨む姿が多くなってきた。 ●児童自らが課題に意欲的に取組み、考え深めていこうとするまでの意識の継続ができにくい面がある。 	<p>育成する力 21世紀型「スキル&倫理観」</p>	<p>主体性</p>	<p>課題発見・解決力</p>	<p>コミュニケーション能力</p>	<p>感謝・思いやり</p>
	<p>低</p> <p>様々な物事を自分で考えて積極的に最後まで取り組もうとしている。</p>	<p>体験活動を通して問題に気づき、自分の考えを進んで交流し、解決することができる。</p>	<p>自分の考えや思いを順序立てて話したり、大事な事を落とさないようにきいたりすることができる。</p>	<p>自分の周りの人、物に対して、ありがとうの気持ちを伝え、温かい心で接したりしようとしている。</p>	
	<p>中</p> <p>様々な物事に興味を持ち、自分から進んで何でも工夫して挑戦しようとしている。</p>	<p>問題状況の中から課題を発見し、解決の見通しをもって情報を収集し、事象を比較したり、関係づけたりして解決することができる。</p>	<p>理由や事例を挙げながら話したり、話の中心に気をつけて聞き、質問や感想を述べたりすることができる。</p>	<p>自分の周りの人、物に感謝の気持ちを自分の言葉や態度で表そうとしたり、お互いを支え合う態度で接したりしようとしている。</p>	
	<p>高</p> <p>様々な物事に関心を持ち、自分の意志と判断で取り組んだり、他に働きかけたりしようとしている。</p>	<p>問題状況の中から課題を設定し、効果的な手段を選択し、情報を収集し、事象間の因果関係を分析したり、推論したりして解決することができる。</p>	<p>自分の考えや気持ちが明確に伝わるように表現を工夫したり、相手の意図をつかみながら話し合ったりすることができる。</p>	<p>自分の周囲の人や物、環境に対し、感謝の気持ちをこめた言葉や態度で表そうとしたり、相手を尊重した共感的な態度で接したりしようとしている。</p>	
	<p>研究</p> <p>教科等 主題・内容等</p>	<p>算数科、生活科・総合的な学習の時間</p> <p>自分の考えをもち、相手意識をもって表現する力の育成 ～「課題意識・解決学習」を重視した、主体的な学びの創造～</p>			
	<p>めざす授業の姿</p>	<p>児童が、課題の解決に向け、友達と協働して考えたり、教え合ったり、意見を交わしたりしながら、主体的に学ぶ授業。</p>			

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立今津小学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							□指標に係る取組状況	力を入れた達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況	力を入れた達成評価	総合評価	改善方策		
2	自ら考え学ぶ児童の育成	★	継続	①進んで自分の考えを伝えようとする児童を育てる。	▶授業に考え、表現する場を設定する。 ▶自分の体験を根拠にした発言などをしっかりほめる。	▶「授業で考えることはおもしろい」・「自分の考えは認められている」と答える児童を80%以上	▶おもしろい76%、認められている77%の肯定的評価。 ▶考えを出す場を設定することはできたが、発言の肯定的評価が十分ではない。	3	3	▶主体的に考えたいくなる課題設定・提示の工夫をする。 ▶児童のつぶやきを聞き、授業の中に位置づける。	▶おもしろい74.4%、認められている78.8%の肯定評価 ▶児童のつぶやきを授業に取り上げたり、肯定評価を返したり、発言を受け入れる集団作りをしたりすることができた。	3	3	3	▶受容的な学習集団作りを意識した授業づくりを行う。 ▶学習内容を子どもに考えさせるなど、主体的な学びづくりを一層進める。
				②「子ども主体の学び」に向けた授業力を向上させる。	▶自分の授業を録音する授業研究の実施。 ▶カリキュラムマップを活用して、育成するスキル&倫理観及び教科間のつながりを意識した授業計画を立てる。	▶自分の授業を学期に2回以上録音・ふり返りをし、「子どもの主体的な学びの姿」を交流する。 ▶算数・国語において、1時間の役割を明確にした単元指導計画を学期に1単元ずつ学年で作成し授業に臨む。	▶授業を録音し、子ども主体の授業になっているかふり返った。 ▶単元計画を立てることはできたが、1時間の役割を十分に検討できていなかったり、実施後のふり返りが十分でなかった。	3	3	▶授業録音後のふり返りの視点を明示し、録音から「つぶやき」をひろいなおし、よりよい授業をイメージする。 ▶授業づくりタイムをつくり、授業のふり返りや単元計画を検討する時間を設ける。	▶校内授業研究において、子どもの学び姿を中心に協議し、授業づくりの視点を共有することができた。 ▶授業づくりタイムを設けることで、学年間の交流や打ち合わせ等に時間を有効活用することができた。	4	3	4	▶異学年交流、教科横断的な学習を中心にしたカリキュラム編成する。 ▶子どもの主体的な学びに対する評価のあり方の検討を進める。
				③児童の特性や困り感を理解した授業づくりを進める。	▶個別の指導計画の作成・実施・改善を行う。 ▶特別支援学級担任の手引きを活用した校内研修を実施する。	▶学期ごとに個別の指導計画の見直しを実施する。 ▶一斉研修の研究協議の際に、毎回特別支援教育の視点を入れる。 ▶学期に2回以上の特別支援教育研修を実施する。	▶1学期の個別支援計画を見直し、9月中旬に保護者と連携を図った。 ▶1学期に2回特別支援教育研究を実施した。	3	3	▶児童の実態をふまえ、学期ごとに目標を立て、具体的な手立てを考え、取組む。また、児童の変容を保護者に随時伝えながら、保護者との連携を図る。 ▶今後も、児童の実態をふまえながら、研修を進める。	▶学期ごとに個別の指導計画の見直しを行った。 ▶校内授業研究において、(特別支援学級の授業研究の際に)特別支援教育の視点を設定した。	3	3	3	▶個別の指導計画について全体の交流の時間を取り、教職員で児童理解を図る。
2	児童の主体性の育成	★	継続	④自らの体力や健康を進んで高める児童の育成。	▶縦割り班を活用した外遊び等の実施。 ▶生活調べや体づくりの宿題による家庭との連携。 ▶体育科授業前サーキットトレーニングの実施。	▶体力テストでの、県平均を上回る種目率50%以上。 ▶早寝・早起き・朝ごはん90%以上の定着。	▶県平均を上回った種目率が47%。昨年度より下がっており、特に50m走とボール投げに課題がある。 ▶早寝・早起き・朝ごはんが90%。朝食については、96%であり、定着しつつある。	3	3	▶「50m走」「ボール投げ」を重点課題とし、授業改善をし、再テストで取組の状況を分析する。(11月) ▶朝食の質を高めるために、小中一貫教育の取組の一つとして生活アンケートを実施し、実態把握する。	▶「50m走」の再テストでは、達成した学年が66%。1年生の課題が大きい。 ▶早寝・早起き朝ごはんの定着率は、86%。	3	3	3	▶外遊びを奨励することで、体を動かす機会を増やす。 ▶早寝・早起き・朝ごはんができていない児童を把握し、個別に声かけをする。
				⑤全ての児童が「学校へ行くのが楽しい」と思える学校づくりを進める。	▶児童が2日連続欠席したら家庭訪問 ▶昨年度長欠児童家庭への継続的な家庭訪問	▶「学校へ行くのが楽しい」と答える児童を90%以上。 ▶新たな長欠0人 ▶新たな長欠児童数前年比50%(6人)	▶「学校へ行くのが楽しい」と答えた児童が86%。 ▶新たな長欠児童0人。(前年度比▲1人) ▶長欠児童5人。(前年度比▲1人)9月末現在	4	3	▶欠席児童は保護者連携、2日連続欠席は家庭訪問を確実に。また、欠席16日以上の子どもの児童については、ていねいに保護者連携を行う。	▶「学校へ行くのが楽しい」と答えた児童が83%。 ▶新たな長欠児童1人。(前年度比▲1人) ▶長欠児童13人。長欠の内5名は、昨年度欠席日数から大幅減。(前年度比▲1人)1月末現在	3	2	3	▶欠席16日以上の児童については、次年度進級時の状況を想定し、保護者連携を行う。また、他機関との連携を積極的に行う。

2	地域とつながる感謝・思いやりの心の育成	継続	⑥地域の人やものに興味や関心を持つ児童を育てる。	▶複数教科で地域とつながった学習や体験を実施する。	▶「地域行事に参加している」「地域の人にあいさつをしている」と答える児童を80%以上。	▶「地域行事に参加している」と答えた児童が72%。 「地域の人にあいさつをしている」と答えた児童が91%。 ▶生活科・総合的な学習の時間を中心に、地域へ出て体験や交流をしたり、地域の方をゲストティーチャーとして招いて学習したりした。	4	4	▶感謝の会をきっかけに、地域の方のかかりについてふり返らせ、主体的に気持ちのこもったあいさつができるようになっていく。 ▶生活科・総合的な学習の時間など、地域の方とかわる場を設定していく。	▶「地域行事に参加している」と答えた児童が71%。「地域の人にあいさつをしている」と答えた児童が88%。	3	3	3	生活科・総合的な学習の時間の綿密な計画の見直しや地域行事参加の肯定的な評価を行うことで、自分たちの地域に興味・関心を高める。
	★	継続	⑦周りの人を気遣う行動力を育てる。	▶幸動「あいさつ、無言掃除、時間を守る」の日常化 ▶縦割り班活動の充実	▶幸動三項目の肯定的評価85%以上。	▶幸動三項目の肯定的評価89%。 ▶縦割り掃除、縦割り体力テスト、元気タイムと、様々な場面で、縦割り班を活用した。	4	4	▶児童会を中心としたあいさつ運動に取り組む。自ら進んであいさつができるように、あいさつのレベルアップを仕組む。 ▶縦割り掃除のふり返りで、担当職員が肯定的評価を積極的に行う。	▶幸動三項目の肯定的評価85% ▶縦割り掃除、縦割り体力テスト、元気タイム、全校レクリエーションなど様々な場面で、縦割り班を活用した。	3	3	3	教職員が一丸となって、幸動三項目の肯定的評価を共通意識をもって行うとともに、主体的な学びを推進する一貫として、「自主・自律」を意識し、た取組を推進する。

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]	
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。